

## 運営推進会議等開催報告書

下記事業所について、次のとおり運営推進会議等を開催したことを報告します。

## 1. 基本情報

事業所名	看護小規模多機能えんじゅ		
サービス種別	看護小規模多機能型居宅介護		
所在地	加西市三口町1257-2		
担当者	小西 和弘	連絡先	0790-48-8885
運営法人	ナイトウメディックス株式会社		

## 2. 開催日時・場所

日時	令和6年3月13日(水)14時～15時05分	場所	ナイトウメディックス株式会社 2階会議室
----	------------------------	----	----------------------

## 3. 出席者(敬称略)

氏名	分野	備考(所属・従事経験など)
	地域住民の代表者	三口町・区長
	地域住民の代表者	三口町・老人クラブ会長
	地域住民の代表者	三口町・民生委員
	市の職員又は地域包括支援センターの職員	加西市長寿介護課
	市の職員又は地域包括支援センターの職員	加西市長寿介護課
	市の職員又は地域包括支援センターの職員	加西市地域包括支援センター
	当該サービスに知見を有する者	市立加西病院 地域医療室
	当該サービスに知見を有する者	加西市社会福祉協議会
	事業所職員	ナイトウメディックス株式会社 福祉事業部
	事業所職員	看護小規模多機能えんじゅ 所長・管理者

## 4. 活動状況報告

<p>・登録者の状況は、別紙のとおり。登録定員29名に対して、利用者数14名。</p> <p>・要介護5の利用者が6名と最も多く、次いで介護4と2の利用者が各3名となっている。 重度の方が多いため、日中も介護ベッドを利用する方が多い。</p> <p>・12月末に1名の方を泊りで看取り。1月に1名の方が特別養護老人ホームへ入所。施設申込み中の方も多く、最近 は入所も早くできている。</p> <p>・短期利用の方が1名あった。</p> <p>・利用者全体では、平均介護度は3.71と前回より0.11(前回3.6回)上がっている。</p> <p>・利用者一人当たりの利用回数が2月で、30.64回/29日(前回31.63回/31日)と週にすると7.4回(前回 週7.1回)と増えている。業務効率を図り、新規利用者を増やす必要がある。</p> <p>・週4回の目安に対して、一人当たり週3.4回多く利用となっており、業務効率の見直しが必要。</p> <p>・年齢で見ると、1月に100歳を迎えた方があり、合わせて2名の方が100歳を超えておられる。 また、若い方で45歳の方がおられるが、退院後より少しずつ良くなって、次の更新では要支援まで回 復される可能性があり、卒業される場合の次の支援策(障がい者福祉サービス)を検討している。</p> <p>・その他、詳細は別紙参照。</p>
---

(裏面あり)

## 5. 活動状況に関する評価・意見・要望

・この運営推進会議では、地域から区長・老人クラブ会長・民生委員と地域の三役の方が揃って参加されるところは貴重な機会なので、地域の方と事業所が連携してより一層特徴を活かせるように地域の方にもご尽力いただき、地域住民と連動できる仕組みがあれば良いと思う。

・地域の三役が揃って参加される会議は珍しくポイントが高い。

・今回の介護保険の改正で、総合マネジメント加算の要件に地域のことが追加されたところは、社協としても目指しているところなので、今後も協力いただきたい。三口町だけに限らず、下里地区全体で地域と地域密着型サービス事業所が連携していけると良い。

→地域も事業所もいろいろな課題に対して、困っていることも多く、人口も減り、支え手も減り、対応も難しくなっている。専門職としても協力していきたい。とくに三口町の三役の方においては、これまでも歴代の役員の方にお世話になっている。なかなか役員のなり手もなく、同じ方に負担がかかっている状況も聞いているため、これ以上あまり地域の皆さんの負担になるような事はしたくない。今されている地域の集まり等でサービス事業者が協力して負担が減るような協力をしていきたい。

・町での三世代交流や生き活きなどにサービス事業所さんからも参加してもらおう事であれば、負担にならないと思う。できる事は協力させてもらいたい。

・地域でも6年ぐらいから、周りの状況を知らない住民が増えている。三世代交流会などにも来てくれない人もおり、自宅から出て来ない人もおり、地域で世間話をしている費ともほとんど見かけない。地域もそういう状態なので、どういコミュニケーションを図っていけばいいのか、地域もわからず教えてもらいたい。

・世代間交流の場として、地域密着型サービス事業所を拠点にするのか、地域ですでに集まっている場所や集まりやすい場所でもいいのか確認が必要。

・専門職だけでなく、地域住民も含めた研修会をするのであれば、民生委員さんは2ヶ月に1回定例で集まっているので、そこに事業所の専門職の方に来ていただくこともできる。

・管理栄養士が定期的に来られた際に嚥下機能等の評価もされているのか？

→看護師が状況を見て、必要と判断する利用者さんについてはご家族とも相談して歯科医に診て貰っている。利用者の決まった歯科がなければ、提携歯科の初田歯科医院に依頼している。

歯科医の指示内容に合わせた食事形態を確認して、管理栄養士に助言してもらっている。

歯科医師から嚥下状態に合わせた指示をいただいても、看多機で召し上げられる食事は工夫できても、ご自宅での食事は老々介護や息子さんが食事の用意をされている場合は、そこまで工夫ができない場合もある。その場合は加西市の配食サービスや民間の治療食等も紹介するが、費用もかかる事なので利用されない事もある。今後地域全体で誤嚥のリスクのある方々にも状態に合わせた食事提供が最寄りの施設や病院からできるようになれば良いと考えている。

・外部評価について、今職員と事業所の自己評価を進められているところだと思いますが、外部評価として個々の職員が自己評価されたものをすべて評価しないといけないのか？

→従業員自己評価をまとめて事業所として評価をまとめたものを第三者評価として、運営推進会議の委員の皆さんに評価をお願いします。3月末に従業員の評価をまとめて事業所として全体評価をしたものを、メールや紙ベース等のご希望の形式をお願いします、その結果をまとめたものを4月末に加西市へ報告してホームページ等で公表する形になる。

## 6. 評価・意見・要望に対する考え・取組み

・運営会議でいただいたご意見等を事業所内で報告し、できる事から取り組んでいく。  
また、他に気づきの事やご要望等があれば、いつでもご連絡いただければありがたいです。

## 7. 地域からの情報提供

・社協として把握しているのは、体操の集まりや地域によっては移動販売等をして集まった人たちが世間話をしている地域もある。地域住民だけで頑張るのではなく、いろいろなサービスや民間なんかも利用して機会を作るのも良いと思う。コロナ禍から集まる機会がなくなり、久しぶりに地域で集まる機会も少しずつ増えてきているので、小さいところから初めて町全体に広げていくのも良いと思う。

・地域の方から集まりを再開するため、社協にお金も含めて相談に来られる方も増えてきている。

・定年を超えても仕事があり、70歳を過ぎてから地域に入ってきて男性は会話がな。新たに活動をしようとしてもなかなか難しい。

→時代が変わってきているので、今の状況に合わせて考えていく事が重要。

・県社協が能登半島の災害ボランティアへ行って帰ってきた活動報告会があり、やはり日頃から顔の見えるつながりがある地域とない地域で、災害後の地域の助け合いの体制に大きな違いがあった事から、普段からつながりのある地域の方が避難先でも活性化して、お互いに協力できている。

・個別避難計画について、市として現在関係機関や地域の方とも協力して取り組みを初めているところ。能登半島の地震もあり、早く進めないといけないと考えている。

→西脇市はすでに市内の居宅介護支援事業所と必要な要介護者の避難計画の作成ができるように契約はしているが、実際の計画作成まではあまり増えていない。と聞いている。

事業所としては、災害時に市内全域から要介護の利用者が集まっているため、一時避難所での介護が難しい方も多いため、福祉避難所等に直接いける方がありがたいと考えている。

## 8. その他特記事項

別紙、参考資料等の説明

